

# ウスバシロチョウの分布調査

永幡嘉之

## 1. はじめに

1993年5月17日から21日まで、実習のため岡山の蒜山演習林に行くことになった。ウスバシロチョウに熱を上げている者としては、大変辛い実習であった。まだ鳥取で集中講義とかいうのなら方法はあるが、いくら何でも蒜山からそっと抜け出して但馬に通うことなど、気の弱い私でなくともできなかった。どうせ昼には皆が測量している間にタラノキの芽を摘んでまわり、夜には皆が製図している横でテンプラを掲げているような生活だったが、浜坂町など平野部のウスバシロチョウは、この5日間にさっさと活動を終えて姿を消してしまっていた。

また、ちょっとした事情があって、再び汽車+自転車の生活に戻っていた。そのため、多くの場所で記録を出して回る例年とは少し違った調査になった。

1992年度の調査で、温泉町千谷・越坂周辺の個体群と、浜坂町久斗川流域の個体群との間に、各個体の大きさに関して安定した差異が見出せるのではないかという印象をもった。そこで、本年は浜坂町池ヶ平（久斗川流域）、温泉町丹土（照来川流域）花口（岸田川流域）の3か所で、雄成虫の大きさの比較を行ってみた。それ以外の調査はほとんどできなかった。

本文中でのデータは、すべて1993年のものである。

## 2. 採集記録と雄成虫の大きさの産地間における差異について

以下の3か所で、雄成虫50頭ずつを採集することを目標にしたのだが、但馬は地形的にみても多数が集中して見られるという産地が少なく、1日で採集するのは無理であった。前年の採集品を加えることも考えたが、気象条件の差による影響を考慮して、本年度の採集個体のみを対象とした。

1992年度の採集品についていえば、浜坂町池ヶ平は全体的に小型、温泉町丹土は大型、温泉町花口は中型であった。同じ展翅板を使った際に、全個体がはみ出す、または収まるということが見られたために気づいたものである。

計測にあたっては、原則として右前翅の最大長を測ったが、破損または明らかな奇形の個体は左前翅を測った。

浜坂町池ヶ平	40♂♂ 4♀♀	23-V	40♂♂の前翅長平均	34.75mm
温泉町丹土	52♂♂ 10♀♀	25-V	52♂♂の前翅長平均	34.59mm
温泉町花口	41♂♂ 5♀♀	29-V	41♂♂の前翅長平均	34.83mm

最近、本種の移動力が大きいという報告を見かけるが、同一の河川の支流で個体群の大きさが異なるのであれば面白いと思ったのである。いろいろな先入観をもって計測してみたが、結果的には有意差は見られなかった。池ヶ平では今までにないような大型個体を得られたし、丹土でもかなりの小型個体が混じっていた。参考までに、1992年の浜坂町池ヶ平での採集品10♂♂の前翅長の平均は33.5mm、温泉町越坂・内山・千谷（いずれも蒲生峠周辺）での8♂♂の平均は35.4mmであり、開張にすると4mm近い差があった。この数値を示すことにより、私がこのようない見無意味な計測を思い立った動機もおわかり頂けるかと思う。

### 3. その他の確認地について

採集記録は、上記の3例の他には温泉町井土（1♀, 25-V）の1例のみである。目撃例として、以下のものがある。

浜坂町久斗山（23-V）この日、久斗山・池ヶ平以外の久斗川流域では曇天のため確認できなかった。温泉町宮脇（29-V）千原にもよい休耕田があったが見られなかった。村岡町小城（16-VI）関宮町福定（14-VI）

### 4. おわりに

今後も各地でこのような大きさの比較を行ってみよう、という気にはあまりなれないが、1992年度ばかりでなく1991年度の採集品をみても、久斗川流域のものはやはり大部分が小型であり、岸田川本流域のものとは一見してその違いがわかる。本年の結果が絶対的とは思えない。来年からも、低地における発生地状況などに重点を置きつつ、分布状況の把握に努めていきたい。但馬では、まだ本種の分布拡大について論議できるほどのデータは揃っていないように思われる。